様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　６日現在

機関番号：１２４０１
研究種目：基盤研究（ｃ）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０５２０１１１
研究課題名（和文）　リヒャルト・ワーグナー研究

研究課題名（英文）　Studys on Richard Wagner

研究代表者池上 純一
（IKEGAMI JUNICHI）
埼玉大学 教養学部 教授
研究者番号：４００９２１２６

研究成果の概要（和文）：ヨーロッパの芸術史・思想史において「モデルネ」（近代の最先端から近代の桎梏を乗り越えようとする思潮）への道を切り開いたドイツの音楽家リヒャルト・ワーグナー（1813-83）の活動とその意義を、音楽作品のみならず著作・論文等に即して美学的、哲学的な見地から解明するとともに、ナショナリズム、ユダヤ人問題、ナチズムなどの歴史的な背景に照らして現代にまで及ぶその影響を功罪を含めて明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research cleared first of all the miening of the works and activities of the German Composers Richard Wagner　(1813-83), who advanced on the way to the “Moderne” (arthistorical and philosophical tendency to transcend the modernity by itself). It surveyed further, concerning not only his music-dramatical works but also his numerous treatises and essays, Wagners historical influence upon us in the 21. century, especially on its backgraund of nationalism, Judeo-problem and Nazisme.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般芸術諸学、
キーワード：細目：音楽学、哲学、独文学

１．研究開始当初の背景
20 世紀前半のナチズムと第二次大戦の惨禍がワーグナーの芸術に落とした影はあまりにも大きく、学問的なワーグナー像の探求は、我が国はもちろん、ヨーロッパにおいてもようやく緒についたばかりであった。

２．研究の目的
ワーグナー研究における基本的な文献としてそのオペラ作品のほか、「コジマの日記」

などの基礎資料、さらにはワーグナーが残した多方面にわたる論文等の翻訳・注解を行ない、その成果を発表することによって我が国におけるワーグナー研究、ひいてはヨーロッパ文化研究に資すること。

３．研究の方法

ワーグナーの残した膨大なスコア（総譜)、台本、書簡、著作のほか、その時代背景を明らかにするうえで必須の新聞、雑誌、書籍、系譜等の同時代資料を広く収集し、翻訳と分析を行なうという方法をとった。

４．研究成果

⑴ワーグナー作品の翻訳については従来日本ワーグナー協会の監修により刊行が続けられてきた「楽劇」の対訳シリーズを引き継ぐかたちで下記のようにロマン的オペラ『ローエングリン』『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』の詳細な注解付き対訳を刊行することができた。

⑵「思索する芸術家」ワーグナーの残した夥しい論文のうち中期を代表する芸術美学論考『ベートーヴェン』『俳優と歌手』について翻訳作業を終えつつあり、ワーグナー生誕 200 年にあたる 2013 年度中に刊行の予定である。

⑶ワーグナー研究の基礎資料である『コジマの日記』については（英、仏訳に続く第３の翻訳である）日本語訳（全 10 巻の予定）が第２巻まで刊行され、準備作業が第３巻まで進捗している。

こうしたワーグナー研究の成果は、下記のごとき公開のシンポジウム、セミナー等を通して広く発信されてきた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①「R・ワーグナーの論文『ベートーヴェン』―抄訳と解題」（池上純一、日本ワーグナー協会編「ワーグナーシンポシオン 2012」、2~17 ページ、2012 年 7 月 20 日、東海大学出版会より刊行、査読なし）

〔学会発表〕（計７件）

①「《オランダ人》工房から」（池上純一・三宅幸夫、2013 年 4 月 13 日、日本ワーグナー協会第 345 回例会、雙葉学園同窓

会館ホール）

②「タンホイザーの工房から ― テクスト編」（池上純一、2012 年 1 月 28 日、日本ワーグナー協会第 331 回例会、雙葉学園同窓会館ホール）

③「ワーグナー都市ミュンヘン ― 舞台芸術の現在 Wagner Stadt München ― ihre Musikbühne heute」（山崎太郎、ニコラウス・バハラー、池上純一、2011 年 9 月 26 日、日本ワーグナー協会・東京ドイツ文化センター（Goethe Institut Tokyo）主催、駐日ドイツ大使館後援･日独修好 150 周年記念国際シンポジウム、ドイツ文化会館ＯＡＧホール）

④「エルザの夢――《ローエングリン》の工房から」（三宅幸夫、池上純一、2010 年 4 月 11 日、日本ワーグナー協会第 310 回例会・創立 30 周年記念講演会、ドイツ文化会館ＯＡＧホール）

⑤「神々の黄昏　入門講座３」（池上純一、2010 年 3 月 19 日、新国立劇場共催・日本ワーグナー協会第 309 回例会、新国立劇場オペラ劇場）

⑥「《ラインの黄金》入門――自然・暴力・契約」（池上純一、2009 年 2 月 21 日、日本ワーグナー協会第 297 回例会、雙葉学園同窓会館ホール）

⑦ラウンドテーブル「ワーグナー研究の新たな課題」（三宅幸夫・池上純一・稲田隆之・伊藤綾、2008 年 10 月 26 日、日本音楽学会第 59 回全国大会共同シンポジウム、国立音楽大学）

〔図書〕（計４件）

①『さまよえるオランダ人』（三宅幸夫、池上純一、対訳・注解・解題論文付、2013 年５月刊行、五柳書院、総ページ数 120）

②『タンホイザー』（三宅幸夫、池上純一、対訳・注解・解題論文付、2012 年６月 16 日、五柳書院より刊行、総ページ数 158）

③『ローエングリン』（三宅幸夫、池上純一、対訳・注解・解題論文付、2010 年５月、五柳書院、総ページ数 150）

④コジマ．ワーグナー『コジマの日記　２』（三光長治、池上純一、池上弘子、2009 年 9 月、東海大学出版会、総ページ数 661）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者池上　純一
(IKEGAMI JUNICHI)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：４００９２１２６

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：